

岡山県看護協会の災害支援 平成30年7月豪雨災害への取り組みと課題



平成30年8月18日
岡山県看護協会
平井康子

災害支援ナース

災害支援ナースとは

下記の条件を満たすものが「災害支援ナース」として都道府県看護協会に登録される。

登録期間は1年であり、毎年登録更新が必要

条件

- 1.岡山県看護協会会員
- 2.実務経験5年以上
- 3.災害看護(基礎編)災害看護(実務編)修了
- 4.施設長の承諾が得られる

活動

- 1.自己完結型活動
- 2.活動期間は移動日を含めて3泊4日
- 3.2人1組で、避難所等に滞在して支援活動

登録用紙はホームページから
ダウンロードできます。

岡山県登録者数

平成30年	91人
平成29年	102人
平成28年	101人
平成27年	78人
平成26年	74人



災害支援ナース派遣

7月10日 岡山県より災害支援ナース派遣要請(災害時の医療救護活動に関する協定による)

7月11日 第2福田小学校へ2人派遣(レベル1)

7月12日 第5福田小、連島南中学校へ2人づつ派遣
15時～10時

7月15日 岡田小学校 サンワーク総社への
派遣依頼 香川県、大阪府看護協会に依頼
(レベル2)

7月30日 派遣終了
(岡山県42人)

8月2日 倉敷市より再派遣要請
15時～21時

(岡田小 苗小 第2福田小学校)

8月14日 派遣終了 (31人)



派遣時の保障:国内旅行傷害保険に加入
交通費実費支給

平成30年7月岡山豪雨災害での看護支援活動

避難所名	派遣元 看護協会	7月														8月																													
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14									
第2福田小学校	岡山県																																												
第5福田小学校	岡山県																																												
連島南中学校	岡山県																																												
岡田小学校	香川県→大阪府																																												
苗小学校	大阪府																																												
サンワーク総社	大阪府→香川県																																												
吉備情クリーンセンター	兵庫県																																												
倉敷健康プラザ	大阪府																																												
合計		2	6	6	6	12	12	14	14	14	16	14	14	14	14	14	10	10	10																										

活動時間 15時～翌10時

岡山県看護協会から派遣

活動時間 15時～21時

災害支援ナースの活動

活動時間:基本的には3泊4日
1泊2日、2泊3日もOK
自己完結型の支援

活動時間:診療班やサポートチームは16時で終了するので
夜間の見守り、健康管理等に対応をする。

15時に保健師チームから申し送りを受けて活動
夜間は岡山県職員2人、倉敷市職員2人と6人で
対応する。

8時30分に保健師チームに夜間の状況を申し送る。

家のかたづけ等から帰ってきた夕方から
就寝までの時間は医療ニーズが高い

10時から15時までは
休息できる場所を確保する。



災害支援ナースの活動



危険防止



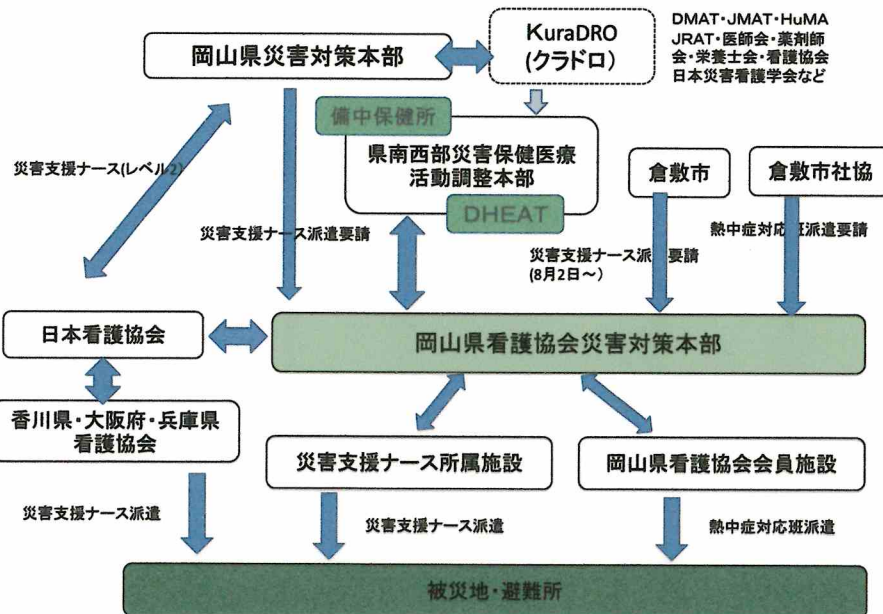
環境整備



説明・傾聴



災害支援体制



災害支援ナースからの報告

活動内容

健康チェックや健康相談
創傷処置
服薬指導
熱中症、急病への対応
皮膚、眼の症状
受診医療施設との調整
生活援助(トイレ介助等)
感染予防
環境調整
DVT予防

気になること

基礎疾患の悪化(糖尿病、高血圧)
栄養の偏り
創傷感染の危険性
メンタルサポート
疲労感と不安から食欲不振、体重減少をきたしている人が増えている
継続して観察や支援が必要な人をどのように繋いでいくか
夏休み中の子どもへの対応、兄弟げんかが多くなっている。体重の増加等)
支援活動する者は、休息をとることも必要
食生活の改善(弁当、野菜不足等)

初めて出会う仲間と協力して活動するので、コミュニケーション力と協調性が求められる

子どもの寝かしつけから、女性自衛官に代わって女性風呂の見回りまで、必要なことはなんでもする、という気持ちで。

状況は常に変化する。変化に対応するのも役割

看護のやりがいを改めて感じる事ができた

倉敷市災害ボランティア運営スタッフ(救護班)派遣

派遣期間：平成30年7月27日～8月31日

派遣人数：6人～8人

活動場所：真備地区

真備支所 川辺サテライト

ミニサテライトが複数設置されている

活動内容：住民およびボランティアの熱中症等への対応

- ・医療機関受診や搬送などのトリアージ対応
- ・創傷処置、バイタルサイン測定
- ・熱中症予防

ポリ袋に氷を入れて氷嚢を作り、飲料や塩タブレット等を作業している人に配り、状況を把握しています。

つらい思いやこれからに不安を聞くこともあります。

救護班(熱中症対応ボランティア)活動

猛暑が続いていることは家の片付けなどの作業をしている人にとって大きなリスクです。

ホームページに共有したい情報をアップしています。

- ◇現場では全国から看護師がボランティアで活動しており、リーダが決まってシステム化されていた。
- ◇看護協会からの指示とボランティアセンターでの指示が違う
- ◇岡山県看護協会会員もボランティアナースと連携をとって、活動しています。
- ◇声をかけると涙ぐまれて、精神的サポートの必要性を感じる

救急病院より、「熱中症で搬送される人が激減した！」と報告がありました。

災害時の活動と課題

ニーズと資源のアンバランス

必要に応じて動き方を決める⇔マニュアルはない

連携して役割を果たす⇔役割・組織

必要な組織が自然発生的にできる

情報の収集と選択そして発信

職能集団として情報を収集し、支援策を決定し、人と物を配置する基地⇒**人材育成と訓練**

支部との連携

災害支援スペシャリスト

(災害看護対策委員会等)



これからの災害支援

医療ニーズは減少

住民の健康生活支援

医療施設の再建
看護職の支援
(メンタルサポートを含む)

倉敷支部役員会(9月8日):倉敷地区での支援活動の振り返り
フォローアップ研修(9月12日):災害支援ナースの振り返り

災害フォーラム(12月14日): 災害支援活動報告